

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">会 議</div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	—
		決裁期日	平成29年9月15日
名 称	平成29年度 第2回安平町未来創生委員会		
日 時	平成29年9月11日 午前・ 午後 6時30分～8時30分		
場 所	安平町役場早来庁舎（第1会議室）		
出席者	安平町 瀧町長、(企画財政課) 木林課長、木村主幹、高橋主幹 委 員 未来創生委員会委員・有識者 14名		
会議概要	<p>1 開会 ◇過半数の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委嘱状交付 ◇欠席者2名を除く12名に対して委嘱状を交付</p> <p>3 町長挨拶 ◇第2期目となる安平町未来創生委員会がスタート ◇第1期目の委員会では、「第2次安平町総合計画」と「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の、この町の未来の方向性を示す、中長期的な計画について議論いただいた。 ◇未来創生委員会では、この2つの計画の策定・見直し・進行管理を役割としている。策定した計画がしっかりと進められているか、進行管理や効果検証など、町民皆様の視点、委員皆様の各お立場から、ご意見、ご助言をいただきたい。 ◇今後10年間のまちづくりの将来像を「育てたい 暮らしたい 帰りたい みんなで未来へ駆けるまち」とした第2次安平町総合計画が平成29年4月にスタート策定して終わりではなく、設定した目標、将来像に向かって今後10年間でしっかりと取り組んでいかなければならない。 ◇2年間という任期期間となりますが、多くのご意見、ご審議をいただきたい。</p> <p>4 安平町未来創生委員会委員及び外部有識者の紹介 ◇事務局にて紹介し、それぞれ自己紹介</p> <p>5 議事 (1) 委員長・副委員長の互選について ◇委員長：小林正道様 副委員長：西村次郎様 にそれぞれ決定 (2) 安平町未来創生委員会の役割について（説明：企画財政課）（P2～P4） ◇委員構成は14名 ◇委員とは別に外部有識者を依頼 ◇「第2次安平町総合計画」と「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」という2つの計画の策定・見直し・進行管理に対して意見を述べるのが役割</p>		

- ◇第2次安平町総合計画の構成と期間について、4ページ下段により説明
- ◇第2次安平町総合計画のうち、平成31年度から4カ年を計画期間とする中期基本計画の策定に向けて、来年度以降の委員会で審議をいただく予定

◆質問・意見等について なし

(3)安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等について

(説明：企画財政課)

①平成28年度 分野別の重要業績評価指標 (KPI) 進捗状況 資料1、資料1-2

【概略説明 (ポイント)】

- ・資料1-2は、平成28年度実績を踏まえた評価・改善シートで、「計画内容→実施施策→結果評価→改善点」という視点で一覧表を作成している。
昨年度の委員会にて指摘のあった点について、シートを修正している。
1点目は、進捗状況を把握しやすくするため、C (チェック) 欄に、単年度別のKPI実績を掲載していること。
2点目は、C (チェック) 欄、A (アクション) 欄について、事業ごとの評価を行っている形となっていることから、施策ごとの評価及び改善を行うようにしたこと。ただ、KPIの設定項目自体が事業KPI的な項目もあり、施策全体の評価となっていない箇所もある。評価の仕方については、まだ改善の余地がある。
- ・進捗状況として、主な取組みと指標項目について説明
雇用分野 (1)企業誘致の促進と町内企業への継続的支援
子育て分野 (1)子育て支援施設の整備促進と充実
くらし分野 (1)移住・定住施策の推進
情報発信分野 (2)情報通信技術を活用した情報提供システムの整備
- ・平成28年度実績を踏まえた総合戦略に係る進捗状況について、全般的なご意見、審議をいただきたい。

<委員>

- ・各分野、各施策項目における進捗状況、評価、改善については、資料にて確認ができる。
ただ、安平町の総合戦略全体としての進捗状況が遅れているのか、順調に進んでいるのかという点が分からないため、今後は全体の進捗状況や全体評価を示してもらえると、より評価や進行管理がしやすいと考える。
- ・資料では、進捗状況として、平成28年度末実績が掲載されている。
本日の会議は、平成29年9月に開催しており、会議時点の直近最新データなども示してもらえると、より進捗状況が分かりやすいし、議論し易い。
- ・子育て分野について
町外幼児の子ども園への広域入所数について、平成29年度は増加見込みとのこと。町外から安平町へ通勤している方ではなく、町外に職場、居住している方が広域入所を利用することのことだが、安平町としてそういった人たちをどうやって移住、定住につなげるかがポイントだと考える。

(企画財政課)

- ・総合戦略全体の進捗状況の示し方については、検討したい。
- ・直近実績データについては、会議の開催時期にもよる。今年度は取りまとめや会議開催が遅かったのでタイムラグが生じている。年度末のKPI実績を迅速に取りまとめて、

会議開催を早い時期に行うことや、直近の実績データを示していけるかなど検討したい。

- ・「園の教育方針に魅力を感じて、町外居住者が広域利用→安平町の魅力を感じ、安平町で子育てしようという意識醸成→移住、定住」というサイクルが生まれてくることを目指している。

<委員>

・子育て分野

広域入所が増えることで、町内の子どもたちが入所できなかつたり、利用が出来なくなるなどの影響は発生しないのか。

(企画財政課)

- ・現在、待機児童は発生していない。
また、広域入所の受け入れは幼稚園部門のみであり、現在のところ余裕を持って受け入れを行っていると考えている。

<委員>

・雇用分野

旧公共施設の民間活用、企業誘致について、この2年間で5カ年目標値2件を達成。初期投資を抑えたい企業側のニーズに合致していると感じている。
ただ、評価・改善点は、今後も民間活用を期待できる遊休施設をリスト化していくとあるが、まだリスト化が出来てない状況では遅いし、残念。
現状で遊休施設となっている施設については把握しているのだから、もっとスピーディーに取り組むべきと考える。より早く、遊休施設の活用公募をするなど取り組むことで、目標値を上回ることができる。

・くらし分野

指標項目「子育て世帯の転入数」について、過去2年の実績値が計画を下回っている状況であり、今後はこの部分の対策を行っていくものと期待している。
指標項目「町外に居住する町内企業従業員の移住・定住数」については、対策が着手されていない。ここは、安平町の人口減少対策として可能性のある部分である。
平成29年度から企業アンケートを行うと聞いている。町外から安平町へ通勤する方が多い状況にあるという分析から、そのターゲットにしっかりとリーチできる事業、取り組みをしっかりと行っていただきたい。

(企画財政課)

- ・くらし分野について、ご指摘の指標項目の進捗状況としては、正直遅れており、町外からの町内企業従業員の移住促進策については着手できていない。
4月からスタートした安平町総合計画でも同様の指標項目、主な取り組みとして掲げており、しっかりと事業を進めていく必要がある。そのため、平成29年度に企業側へのアンケートを実施中であり、町外から町内へ通勤している方、新規で安平町の企業、事業所に就業する方に安平町に住んでもらうための支援策などの取り組みを検討しているところ。

<委員>

・雇用分野

企業誘致については、「企業誘致+従業員の定住（すまい）」をセットで企業へアプローチすることが大事であり、効果的である。

企業誘致だけが実現できても、従業員は町外に住んで、そこから安平町へ通勤することとなる。

遊休施設の民間活用を進めたり、企業誘致を行う場合には、町内に従業員が住むことができる場所（すまい）が無ければ、従業員は住めない。アパートなどの賃貸住宅、中古住宅、住宅用分譲地などが必要であり、企業側への情報提供も重要。

（企画財政課）

企業誘致を行うにあたり、町の魅力や移住定住の支援策をセットでPRしていくことが重要と認識しており、それを意識したパンフレットなどを作成しているが、まだ情報の発信が不足している、

<委員>

・情報発信分野

◇町ホームページをリニューアルして半年がすぎるが、準備中のコーナーがあったり、情報量が少ないと感じる。町の情報発信とイメージ向上としてリニューアルしているが、準備中のままでは逆にイメージが下がる。

総合戦略にもあるとおり、届けたい情報を届けたい相手にしっかりと届けること、外部への情報発信が、人口減少対策を進め上で重要な要素である。

◇リニューアルにより表紙は新しくなったが、移住コーナーの中身は変わっていない。企業誘致コーナーは、企業名を列記して紹介しているが、地区別や五十音順での掲載の検討、写真の掲載が無い企業などもある。

もう少し、ホームページの工夫が必要ではないか。

<外部有識者>

・くらし分野、情報発信分野

直近で転入してきた子育て世代が数世帯いるとの実績がある。

こういった方々を対象に、安平町へ転入した理由やきっかけ、安平町の感想などをアンケートや聞き取りし、ホームページで発信すること検討してはどうか。

外部に対する情報量を増やせることと、実践者からの言葉は発信力も高まることから、安平町への移住を検討している方の背中を押すことにもつながる。

（企画財政課）

ホームページでの発信などは、ご指摘のとおり。

情報担当や移住担当など、担当課へ伝えて検討いただく。

<外部有識者>

- ・PDCAの何を評価、検証するのか。
P（プラン）とD（実行）・C（チェック）が連動していないと感じる。
評価、検証をする上では、資料（1-2）の作り方が分かりにくい。
*例えば、「くらしの分野」の(1)移住定住施策の推進で、D(実行)欄で、統合型GIS整備事業を掲載しているが、C(チェック)欄には、これに対応・関連した指標項目がないなど。

(企画財政課)

- ・昨年度の当委員会において、総合計画の指標項目やKPI設定について、委員会から同じような指摘を受けている。
- ・本来であれば、施策KPIを設定すべきであるが、事業KPI的な設定項目もある。取組みと指標項目を連動、関連性を持たせないと、ご指摘のとおり何を目標として事業に取り組むのか、何を評価して良いのか、事業を行う側も評価を行う側も戸惑ってしまう。設定している指標項目の変更については、計画の見直し時に必要な部分是对应するよう検討したい。
- ・また、資料1-2について、評価、検証シート上、連動していないという印象を受ける部分については、シートに何を記載すべきなのかの精査、D(実行)欄の取り組み事業について不要な部分は削除するなど、対応したい。
- ・先ほども説明したとおり、施策全体の評価となっていない箇所もあり、評価の方法については、まだ試行錯誤。
行政側としては、このPDCAサイクルをどのように構築していくか、これが課題と認識している。

②地方創生加速化交付金事業の評価・検証について 資料2

【概略説明（ポイント）】

各事業について、安平町総合戦略における施策分野の位置づけ、事業概要と目的、評価項目、自己評価と課題等について説明

- ・あびらの魅力資源を活用した民間主体による回遊交流と観光地域づくりに向けて

<委員>

安平町は景観が良いという声を聞くが、点でしかない。

点と点をつなげていくことが重要であり、回遊ルートは必要である。

今後建設される「道の駅」や、各地区を拠点に回遊できるモデルルートやルートマップなどを示していけると良い。

<委員>

グリーンツーリズム事業の参加対象者については、安平町の自然環境等の魅力を伝えるためにも、近郊都市住民だと認識することから、近郊都市圏への情報発信が重要だと考える。

③地方創生推進交付金事業の評価・検証について 資料3

【概略説明（ポイント）】

- ・地方創生推進交付金の概略と特徴、採択事業の施策分野の位置づけ、事業概要と目的、評価項目、自己評価と課題等について説明

<委員>

人が住む場合には、公共交通の利便性が高いことが重要な要素であり、安平町にとっての大きな課題の一つである。利便性、効率性の良い地域公共交通の確立を目指してほしい。

また、推進交付金を活用して作成した地域公共交通網計画では、どういった取り組みを掲げているのか。

(企画財政課)

- ・ これまでは、鉄道は鉄道、路線バスは路線バス、デマンドバスはデマンドバスと、それぞれ単品で考えてきたところがある。
- ・ 昨今のJR存続の動きもあって、単品で考えるのではなく、総合的な視点にたって公共交通を考えていきたいと思いますというのが、この交通網計画の肝の部分。
- ・ 取組みとしての大きなものとしては、運行経路の重複するバスの再編見直しと、JRを基本として他の交通機関との接続の効率化等について、今後5年間で取組んでいくこととしている。

また、平成29年度事業では、各公共交通機関の総合時刻表、路線図マップを作成する予定としている。

6 その他

- ・ 委員から、安平町総合計画と総合戦略の関係性、位置づけについて質問があったことから、レジュメ4ページにより説明
- ・ 会議時間の関係上、総合戦略の進捗状況、交付金事業に係る評価検証について、会議での意見以外に意見等がある場合には意見シートの提出を依頼

7 閉会

以上、終了。(20:30)